歌浦小学校　＆　ブラッセル日本人学校補習校　25号

歌浦っ子・ベゴニア通信

文責　ブラッセル日本人学校補習校
校長　佐藤　博

映画「オッペンハイマー」から感じたこと

　みなさんは「オッペンハイマー」という映画、知っていますか？今年の夏、世界中で人気となったアメリカの映画ですが、日本では上映されていない映画です。実はこの映画、実在したアメリカの物理学者「オッペンハイマー」という人物を扱った映画で、このオッペンハイマーこそ、原子爆弾を発明した「原爆の父」と呼ばれる人物なのです。最初にアメリカでこの映画が上映されたときから「多くの人が亡くなった原爆を発明した人を称賛する映画なんて」「ヒロシマやナガサキの惨状を描いていない映画は果たして見る価値があるのか」といった声がネットからもたくさん聞こえてきました。私はここベルギーでも平和の大切さを伝えなければと思い、様々な場面で平和教育を行っています。幸い、日本人学校で使用されている国語の光村図書の教科書には、「ちいちゃんのかげおくり」や「たずねびと」など、戦争に関する教材が多く掲載されており、そのたびに教室にお邪魔しては長崎の惨状を中心にした平和学習を行っています。そのようなこともあったので、この映画はぜひ見ておかなければならないと思い、英語で上映、フランス語字幕というほぼわからない状態のまま見に行きました。ネットで書かれていた通り、原爆の被害がどのように人々を苦しめたのか、また放射能による人体への影響がどのくらいあるのか等、映画の中でふれることはほぼありませんでした。もちろんヒロシマやナガサキの惨状を表現しているところもありません。というよりも、私個人の感想で言えば、「この原爆のおかげで日本が降伏した」「原爆のおかげで戦争が早く終わった」という思いを持っているアメリカの人がほとんどで、そのためにこの原爆を発明したオッペンハイマーは、ヒーローのように扱われている、という感じがしました。（言葉がわからないところが多く、本当はそうではなかったかもしれません。個人的感想です。）とにかく一瞬のうちに数万人が死んでしまい、そして生き残った人も、放射能で戦争が終わった後もずっと苦しむことになる・・・そのような事実には全く触れていなかったことは非常に残念ではありました。ただ、もしかしたらこれが世界の考え方なのかもしれません。長崎出身の私としては、なんかもやもやしたものが残る映画でした。

　そのような中、日本大使館では「原爆展」が開催されました。これは日本人学校に昔、勤めていた元事務長である中山さんという方が今年の夏に広島に行き、原爆資料館の方から資料をたくさん借りることができたため、その資料を使って原爆展を開催したとのこと。広島の資料館から持ってきただけあって、原爆の惨状がそのまま伝えられるものが多く、ここベルギーではなかなか見ることのないものがほとんどでした。日本人の方がきっと多いんだろうなと思って見に来たのですが、ベルギーの方もたくさん来館され、一生懸命資料を見ていました。たまたま来ていた方に尋ねたところ「こういう被害があったとは知らなかった。だからこそ原爆は２度と使ってはいけないし、戦争をしてはいけない」という話をされていました。ここベルギーはウクライナにも近く、戦争に対しては日本よりも危機感を持っているような気がします。オッペンハイマーもそうですが、このような原爆展を通して、その歴史から学び、２ 度と過ちを繰り返さないというのは忘れてはいけないことだなと感じました。

全日制で『合唱祭』がありました

　２年前までは教会を貸し切って実施していた全日制の「合唱祭」、昨年度からはブラッセル日本人学校の玄関ホールにて実施することとなりました。ここでは音も非常に良く響き、また３階まで吹き抜けになっているため見学もしやすい、ということもあり、本年度もたくさんの保護者の方が見に来られていました。私も聞きに行ったのですが、みんなとても上手でビックリ！特に中学生の合唱は見ていて涙が出るほど感動しました。中３の子たちは今年、卒業も控えていて思いも特別なのでしょう、歌っている途中に泣き出してしまう子もいて本当に心がジーンと震えるような素晴らしい合唱祭でした。全日制の皆さん、感動をありがとう！